

小森谷

小森谷の大桑層

小森谷では土砂採取が何カ所もあり、大規模な露頭がたくさんあります。中でも写真の露頭では、シルト質砂岩の上に泥岩が整合の関係（平行になって積み重なっていること）が分かります。この露頭は、正面と左右、県道を挟んで後方にと周囲を囲まれた四方切端で、地層が水平方向にずっと続いていることを実感できる場所です。



小森谷南側の露頭



小森谷西側の露頭



小森谷北側の露頭



小森谷東側の露頭



小森谷北側の露頭の裏面



火山灰を含む地層

現地学習に出かけた場合、東西南北の各地層をスケッチするとともに、「鍵層」と呼ばれる分かりやすい層を手掛かりにそれぞれの露頭のつながりを考えるとよいでしょう。この露頭では、写真で灰色に見える層が鍵層となります。

大桑層内の小動物化石

小森谷の地層は、新第三紀層の最上部にあたります。先程の大露頭のさらに上の層から、貝、ウニ、魚、哺乳類の化石が発見されています。特徴的な化石としては、ホクリクホタテやヨコヤマホタテなどのイタヤガイ科の貝と、カシパンウニの仲間の化石が挙げられます。



カシパンウニの化石



ホクリクホタテの化石



ヨコヤマホタテの化石